高等教育研究開発推進センター業績

（2004年９月１日～2005年８月31日）

田　中　毎　実（教授）

【著書など】

・田中毎実　「授業を開発すること」大学教育学会25年史編纂委員会編『新しい教養教育をめざして―大学教育学会25年の歩み』東信堂、2004年11月、228-232頁

【学術論文など】

・田中毎実　「教育哲学を考える」（教育哲学会『教育哲学研究』第90号　56-７頁）2004.11

・田中毎実　「シンポジウムＩを司会して」寺崎昌男と共著（大学教育学会『大学教育学会誌』第26巻　第２号　177-186頁）2004.11

・田中毎実　「絶句と発語の間―臨床的人間形成論の生成をめぐって―」（教育哲学会『教育哲学研究』第91号　１-６頁）2005.5

【その他の著作物】

・田中毎実　「相互研修型FDの組織化による教育改善―京都大学の取組事例を中心にして―」、『2004年度第２回FD研修会』流通科学大学、2004.11

・佐藤　学、佐藤雅彰、山脇直司、金泰　昌、矢崎勝彦、田中毎実　「二十一世紀の日本の教育課題」（公共哲学京都フォーラム談論シリーズ１）公共哲学共協研究所、2004.12

【学会報告など】

・大学教育学会27回大会（京都大学）シンポジウム２　「大学教育改革と大学教育学会」（司会）2005年６月

・田中毎実　「ライフサイクルと世代連関における青年」日本教育学会第67回大会大会（東京学芸大学）・公開シンポジウム「現代青年論の再考」2005年８月

【FD講演会など】

・和歌山大学　第５回FDフォーラム　コメンテーター　2004年11月

・金沢大学　第２回大学教育セミナー　講師　2005年３月

・New Education Expo 2005　講師　「FDと大学教育改革」2005年６月

・石川県立大学　第１回全学セミナー　講師　「FDの現状と課題」2005年７月

【非常勤講師など】

・愛知県立看護大学大学院非常勤講師（教育学特論）

【社会における活動など】

・日本教育学会（編集委員）

・教育哲学会（常任理事）

・教育思想史学会（理事）

・大学教育学会（常任理事）

・大学教育学会第27回大会企画委員会委員長

・山梨学院大学附属小学校客員研究員

・「地域ネットワークFD“樹氷”」諮問委員

・文部科学省大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員

【学内委員】

・京都大学高等教育研究開発推進機構執行協議会協議員

・京都大学高等教育研究開発推進センター第１部門部門長
・オープン・コースウェアプロジェクト WG 委員

大　塚　雄　作（教授）

【著書など】

・大塚雄作　2005　学習コミュニティ形成に向けての授業評価の課題　溝上慎一・藤田哲也（編）　心理学者、大学教育への挑戦　ナカニシヤ出版　pp. 2-37

【学術論文など】

・大塚雄作　2005　授業アンケートの結果と分析　京都大学高等教育叢書21　『平成16年度採択特色 GP「相互研修型 FD の組織化による教育改善」活動報告 ―― 2004年度工学部授業アンケート（速報版）』、17-202. 京都大学高等教育研究開発推進センター

【FD 講演会など】

・大塚雄作　2004. 11. 18　授業の改善とアカウンタビリティ ―― 授業評価をどう捉えるか　龍谷大学
・大塚雄作　2004. 11. 19　授業の改善とアカウンタビリティ ―― 授業評価調査の課題　早稲田大学
・大塚雄作　2004. 12. 17　授業改善と大学評価 ―― いま、大学人に求められるもの　東京工業大学
・大塚雄作　2005. 2. 2　大学評価に思うこと　京都大学教育学研究科ラウンドテーブル・アワー「湧く」
・大塚雄作　2005. 2. 18　大学授業の改善とアカウンタビリティ ―― 学びの共同体形成に向けて　山形短期大学
・大塚雄作　2005. 2. 26　大学文化の形成と評価　奈良女子大学
・大塚雄作　2005. 3. 6　授業評価これからの10年 ―― 授業改善とアカウンタビリティ　第10回京都ＦＤフォーラム第１分科会コーディネーター　京都キャンパスプラザ
・大塚雄作　2005. 3. 9　これからのＦＤと大学評価のあり方 ―― 大学の自律性と説明責任の狭間で　福井大学地域教育科学部
・大塚雄作　2005. 3. 18　大学評価 ―― 大学の自律的発展に資する評価のあり方　中華人民共和国大学管理運営向上プログラム　立命館大学
・大塚雄作　2005. 3. 22　大学授業の改善とアカウンタビリティ ―― 授業評価の新しい課題　第11回大学教育研究フォーラム総括講演　京都大学
・大塚雄作　2005. 3. 22　大学教育評価 ―― 評価する側の論理　第11回大学教育研究フォーラム・大会企画フォーラム司会　京都大学
・大塚雄作　2005. 4. 25　『国際連携』の評価『大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究』研究会　大阪大学
・大塚雄作　2005. 5. 11　大学評価 ―― 大学の自律的発展に資する評価のあり方　中華人民共和国大学管理運営向上プログラム　立命館大学
・大塚雄作　2005. 7. 6　大学評価 ―― 大学の自律的発展に資する評価のあり方　中華人民共和国大学管理運営向上プログラム　立命館大学
・大塚雄作　2005. 8. 18　高等教育の質の向上を目指す評価のあり方 ――“改善”と“説明責任”の狭間で　IDE セミナー　札幌ガーデンパレス

【非常勤講師など】

・大学評価・学位授与機構評価研究部特任教授（2005年３月まで）
・放送大学客員教授（改訂版・社会調査の基礎）

【社会における活動など】

・フジテレビ「ポンキッキーズ」スーパーバイザー（2005年３月まで）
・独立行政法人大学評価・学位授与機構　学位審査会専門委員（教育学系）
・独立行政法人大学評価・学位授与機構　短期大学評価委員会委員
・独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部　調査研究協力者
・独立行政法人大学評価・学位授与機構　試行的評価に関する検証委員会委員（2005年３月まで）

・特定非営利活動法人実務能力認定機構　理事
・特定非営利活動法人実務能力認定機構　評価・審査委員会委員長
・文部科学省「大学への早期入学及び高等学校・大学間の接続の改善に関する協議会」委員
・文部科学省高等教育局大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員
・経済産業省主催「理工系人材確保のための大学教育改革研究会」委員
・財団法人大学コンソーシアム京都第11回 FD フォーラム企画検討委員会委員
・日本高等教育学会（編集委員）
・日本テスト学会（テスト・スタンダード作成委員会委員）
・大学教育学会第27回大会実行委員長（京都大学主催）

【学内委員など】

・京都大学　大学評価支援室室長
・京都大学　大学評価小委員会委員
・京都大学　大学評価委員会委員
・京都大学　学術情報拠点発明評価委員会委員

松　下　佳　代（教授）

【著書など】

・松下佳代 「活動と物語―教育実践の事例研究を通して―」鹿毛雅治編著『教育心理学の新しいかたち』誠信書房、2005年 2 月、203-226頁
・松下佳代 「習熟とは何か―熟達化研究の視点から―」梅原利夫・小寺隆幸編著『習熟度別授業で学力は育つか』明石書店、2005年 8 月、140-182頁

【学術論文など】

・M. Ahuja, W. Uegaki, & K. Matsushita, Japanese Theorem: A Little Known Theorem with Many Proofs -Part II, *Missouri Journal of Mathematical Sciences,* Vol. 16, No. 3, Fall 2004, pp. 72-81
・お茶の水女子大学21世紀 COE プログラム 「誕生から死までの人間発達科学」報告書『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究　JELS 第 5 集　中学校・高等学校学力調査報告』（算数・数学グループリーダー　松下佳代）、2005年 3 月（全174頁）、第 I 章、第 II 章、第 IV 章 A・B・C・E、第 V 章 D、第 VI 章、第 VII 章
・松下佳代 「学生による授業評価―改善と説明責任―」『日本物理学会誌』第60巻第 4 号、2005年 4 月、297-300頁

【その他の著作物】

・松下佳代 「特色のある大学教育プログラムと FD 活動」『第 9 回 FD フォーラム報告集』大学コンソーシアム京都、2004年10月、293-296頁
・松下佳代 「2004年度工学部授業アンケートについて」『京都大学高等教育叢書21　2004年度工学部授業アンケート（速報版）』2005年 3 月、 7 -15頁
・松下佳代 「学生による授業評価―現状と課題―」『京都大学高等教育叢書21　2004年度工学部授業アンケート（速報版）』2005年 3 月、203-208頁
・松下佳代 「百ます計算をこえて」『数学教室』第639号、2005年 2 月、 5 -11頁
・松下佳代 「もう一つの学力評価法―パフォーマンス・アセスメント―」『小学校算数　教師用指導書　第二部研究編』2005年 3 月、266-279頁
・松下佳代 「評価する側の論理、評価される側の論理」『第11回大学教育研究フォーラム発表論文集』2005年 3 月、18-19頁
・松下佳代 「課題研究：『学習共同体』の現在」『教育方法学研究』第30巻、2004年 3 月、147頁
・松下佳代 「百ます計算をこえて―パフォーマンス・アセスメントの試み―」『研究と実践』数学教育協議会、2005年 5 月、 3 -22頁
・松下佳代 「学力・学習・評価― PISA と PA ―」『教育』第712号、2005年 5 月、60-67頁

・松下佳代 「パフォーマンス・アセスメント」『「見えない学力の評価」の研究』（教育調査研究所研究紀要第85号）、2005年５月、66-67頁
・松下佳代 「問われる学力の中身と評価」『ひろば・京都の教育』第143号、2005年８月、25-30頁

【学会報告など】

・松下佳代 「学習共同体の生成と個の学び」日本教育方法学会（課題研究Ⅰ「『学習共同体』論の現在」）、和光大学、2004年10月
・松下佳代・石井英真・遠藤貴広 「パフォーマンス・アセスメントの方法と意味―JELS 2003・Wave1の実施をふまえて―」教育目標・評価学会、滋賀大学、2004年11月
・松下佳代 「評価する側の論理、評価される側の論理」第11回大学教育研究フォーラム、京都大学、2005年３月
・松下佳代 「相互研修型FDの組織化による教育改善（中間成果報告）」第11回大学教育研究フォーラム・ラウンドテーブル、2005年３月

【FD講演会など】

・松下佳代 「FD活動の意義」愛知県立医療技術大学第１回FD研修会、2004年９月
・松下佳代 「信州大学FD合宿に参加して」信州大学高等教育システムセンターFD合宿、2004年12月
・松下佳代 「誰のための評価？」大学コンソーシアム京都第10回FDフォーラム・シンポジウム、2005年３月
・松下佳代 「FDでいま何が課題になっているか」三重大学教育学部FD、2005年７月
・松下佳代 「特色GP『相互研修型FDの組織化による教育改善』活動報告（第２回）」京都大学高等教育研究開発推進センター、2005年７月
・松下佳代 「学生による授業評価について」2005/2006 KUINEP担当者懇談会、2005年７月

【その他の講演】

・松下佳代 「パフォーマンス・アセスメントの方法と意味―JELS 2003・Wave1の実施をふまえて―」人間環境科学科自然環境論講座主催講演会（神戸大学発達科学部）、2004年11月
・松下佳代 「算数・数学の学力調査結果について」お茶の水女子大学COEセミナー、2004年11月
・松下佳代 「今を生きる子どもたちの学力について―百ます計算、学力調査にふれながら―」京都教育文化センター、2005年１月
・松下佳代 「百ます計算をこえて―パフォーマンス・アセスメントの意味―」数学教育協議会第36回全国研究会議、鈴峯女子中学・高等学校、2005年２月
・松下佳代 「パフォーマンス・アセスメントによる学力評価について」伊丹市中学校数学科教員研修会、2005年２月
・松下佳代 「パフォーマンス・アセスメントによる学力評価について」あきる野市立屋城小学校校内研修、2005年３月
・松下佳代 「新しい学力観（PA）とその学び」兵庫県立東灘高等学校職員研修会、2005年３月
・松下佳代 「算数・数学の学力とは？―パフォーマンス・アセスメントを通して―」九州地区数学教育協議会研究会議、2005年５月
・松下佳代 「学力問題へのもう一つのアプローチ―パフォーマンス・アセスメントへの誘い―」石川県数学教育協議会JUNE研究会、2005年６月
・松下佳代 「学びを可視化する」第２回教育のアクションリサーチ研究会、2005年８月
・増島高敬・松下佳代 「学力低下を問う―OECD－PISAとお茶の水女子大調査－PA―」数学教育協議会第53回全国研究大会、2005年８月
・松下佳代 「算数・数学の学力とは？―パフォーマンス・アセスメントを通して―」第55次湘北教育研究集会、2005年８月

【社会における活動など】

・日本教育方法学会理事
・教育目標・評価学会理事、編集委員
・日本カリキュラム学会理事

・日本工学教育協会　編集・出版委員会幹事
・お茶の水女子大学21世紀 COE プログラム 「誕生から死までの人間発達科学」第３プロジェクト算数・数学学力調査問題作成グループリーダー
・大学コンソーシアム京都第10回 FD フォーラム企画検討委員会委員
・大学コンソーシアム京都京都高等教育研究センター研究員
・学校図書算数教科書著作者

【学内委員など】

・点検・評価実行委員会委員
・KUINS 利用負担金検討委員会委員
・学術情報メディアセンター学内共同利用運営委員会委員

【非常勤講師など】

・神戸大学大学院総合人間科学研究科非常勤講師 「教育方法特論」（2005年度前期集中）

大　山　泰　宏（助教授）

【学術論文など】

・大山泰宏　連載 「日常性の心理療法（５）―電子メディア社会の心理療法」『こころの科学』117号、日本評論社、120-126頁、2004年９月
・大山泰宏　連載 「日常性の心理療法（６）―物語を生きる」『こころの科学』118号、日本評論社、116-122頁、2004年11月
・大山泰宏　連載 「日常性の心理療法（７）―可能性の果てる地平から」『こころの科学』119号、日本評論社、120-126頁、2005年１月
・大山泰宏　連載 「日常性の心理療法（８）―日常性と臨床性」『こころの科学』120号、日本評論社、180-185頁、2005年３月
・大山泰宏　連載 「日常性の心理療法（９）―沈黙する身体（私と身体１）」『こころの科学』121号、日本評論社、146-152頁、2005年５月
・大山泰宏　連載 「日常性の心理療法（10）―トラウマとしての身体（私と身体２）」『こころの科学』122号、日本評論社、121-127頁、2005年７月

【報告書・書評】

・大山泰宏 「授業評価の理論と実践」『第４回スクールリーダー・フォーラムの研究報告書』大阪教育大学、2005年３月
・大山泰宏　書評 『大学の指導法―学生の自己発見のために』（児玉義仁（他）編、東信堂）『IDE ―現代の高等教育』468号、69-71、2005年３月

【社会的活動】

・京都府看護協会　認定看護管理者（ファーストレベル）講習会講師、2004年９月
・京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践センター心理教育相談室スタッフ
・医療法人竹村診療所　非常勤カウンセラー

【その他】

・パリ第８大学教育科学部高等教育研究センター（le centre de recherches sur l'enseignement supérieur）（フランス）客員研究員（2004年10月～2005年９月）

溝　上　慎　一（助教授）

【著書など】

・溝上慎一 「否定的アイデンティティ」谷冬彦・宮下一博（編著）『さまよえる青少年の心―アイデンティティの病理―』北大路書房、2004年９月、50-54頁

・溝上慎一 「現代の大学生」山内乾史・原清治（著）『学力論争とはなんだったのか』ミネルヴァ書房、2005年１月、166-209頁
・溝上慎一・藤田哲也（編）『心理学者、大学教育への挑戦』ナカニシヤ出版、2005年４月
・溝上慎一 「アイデンティティと発達―社会に身をおいて自分であるということ―」麻生武・浜田寿美男（編）『よくわかる臨床発達心理学』ミネルヴァ書房、2005年４月、50-51頁

【学術論文など】

・山田剛史・溝上慎一 「大学教育における協調学習の果たす役割と効果―対面環境における異学年交流に着目して―」『神戸大学発達科学部研究紀要』12（１）、2004年９月、175-187頁
・溝上慎一 「大学新入生の学業生活への参入過程―学業意欲と授業意欲―」『京都大学高等教育研究』10、2004年11月、67-87頁

【学会報告など】

・溝上慎一 「促進状況を作り出す自己組織化的な場」藤田哲也・安永悟企画・自主ワークショップ「心理学者、大学教育への挑戦―学生の観点に立った学び支援―」日本心理学会第68回大会、関西大学、2004年９月
・溝上慎一 「大学教育研究とボトムアップ人間関係論」サトウタツヤ企画・自主ワークショップ「ボトムアップ人間関係論の構築」日本心理学会第68回大会、関西大学、2004年９月
・溝上慎一 「指定討論」大野久企画・自主シンポジウム「生育史分析（伝記分析）の有効性と具体的方法」日本教育心理学会第46回総会、富山大学、2004年10月
・溝上慎一 「指定討論」山田剛史・奥田雄一郎企画ラウンドテーブル「大学生心理学の構築―青年心理学と大学教育学の架橋―」第11回大学教育研究フォーラム、京都大学、2005年３月
・溝上慎一 「構造的に語りを掬うカード構造化法―仮説検証的な面接法―」やまだようこ企画・自主シンポジウム「質的心理学の方法論（１）―「語る」身体の「語り」を掬う―」日本発達心理学会第16回大会、神戸大学、2004年３月
・Mizokami, S. “The spurt of self-construction as a self-generative system” XIIth European Conference on Developmental Psychology、Spain: Universidad de La Laguna、2005年８月

【その他の著作物】

・溝上慎一 「学生のインサイド・アウトによる生き方がもたらす学習態度の問題点」『2003年度第９回ＦＤフォーラム・第１回高大連携教育フォーラム報告書―生徒が学生に成長するために―』（大学コンソーシアム京都）、2004年10月、224-227頁
・溝上慎一 「書評／絹川正吉・舘昭編著『学士課程教育の改革』東信堂」『大学論集』（広島大学高等教育研究開発センター）、35、2005年３月、473-475頁

【非常勤講師など】

・大手前大学社会文化学部非常勤講師 「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」（2004、2005年度通年）

【講演会など】

・立教大学大学教育開発・支援センター講演 「現代大学生論と立教大学」、2005年１月
・京都光華女子大学講演 「求められるシステム要素としてのＦＤ―ＦＤの最先端と課題―」、2005年１月
・滋賀県立膳所高校講演 「将来の進路を考えるにあたって」2005年３月
・滝高校講演 「大学が高校生に期待すること―昨今の大学と社会の時代的変化をふまえて―」、2005年６月
・大学生協連・ビジョンとアクションプラン改定第２回講演会 「時代が求める学習様式と大学教育改革が目指す学生の学習様式との相違」、2005年７月
・学研 GIC モーラステーション主催講演会 「加速する学習力―自ら学びとる勉強、そのための環境づくり―」、2005年８月

【学内委員など】

・教養教育専門委員会
・少人数教育（ポケットゼミ）部会

【社会的活動など】

・日本青年心理学会　『青年心理学研究』編集委員

・International Conference on the Dialogical Self, Scientific Committee 委員

酒　井　博　之（助手）

【学術論文など】

・Kuroki, S., Hamada, M., Sakai, H., and Ando, Y. 2004 Individual preference in relation to the temporal and spatial factors of the sound field: factors affecting individual differences in subjective preference judgments. J. Temporal Des. Arch. Environ., 4, 29-40.

【その他の著作物】

・平成16年度採択特色ＧＰ　「相互研修型ＦＤの組織化による教育改善」活動報告『2004年度工学部卒業研究調査プロジェクト（速報版）』京都大学高等教育研究開発推進センター、2004年６月

【ＦＤ講演会など】

・京都大学高等教育研究開発推進センター　第11回大学教育研究フォーラム　ラウンドテーブル　「相互研修型ＦＤの組織化による教育改善（中間成果報告）」話題提供、2005年３月

・酒井博之・山田剛史　「工学部「卒業研究調査」経過報告」、京都大学高等教育研究開発推進センター第69回公開研究会「特色ＧＰ『相互研修型ＦＤの組織化による教育改善』活動報告（第２回）」2004年７月

【社会における活動など】

・大学教育学会第27回大会実行委員

・特定非営利活動法人音の文化研究会理事

【非常勤講師等】

・京都大学高等教育研究開発推進センター教務補佐員（2004年10月～2005年３月）

・京都コンピュータ学院非常勤講師